

台風 19 号で多摩川の堤防越水まで 1.5 メートル 危ないリニア等々力非常口の立地～現地視察報告

12～13日にかけて関東地方南部を通過した台風19号は、関東のみならず東北地方まで強風と豪雨による被害をもたらしました。神奈川県と東京都の間を流れる多摩川も大雨で洪水のおそれがあるとして、河岸の住民に対し行政によるレベル5の避難指示が発令されました。

川崎市内でも高津区の平瀬川が多摩川の流れに押し戻されて住宅地浸水があり、男性1人が亡くなりました。川崎市中原区が多摩川沿岸の等々力緑地隣接地では、リニア新幹線の等々力非常口の基盤工事が始まっていますが、この付近の多摩川の水かさが堤防越水まで1.5メートルまで達し、洪水の危険が迫りました。また、等々力ミュージアムも大雨で地下に水が流れ込み、除水作業のため休館になっています。

等々力緑地周辺は市のハザードマップで浸水地域に指定され、多摩川が決壊すれば6メートルの浸水があると想定されています。今後19号を超える大型台風の襲来も十分に想定されるにもかかわらず、堤防脇にリニア非常口をつくることは極めて危険なことです。住民の命を守るべき川崎市、河川管理の責任者である国交省が、危険な場所にリニア非常口の建設を認めることはあまりにも無責任です。

台風一過の16日、等々力非常口周辺を視察し写真を示しながら報告します。

(2019.10.16 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会、写真は10月16日撮影)



等々力非常口

右は十月十六日の非常口。
左は等々力緑地見取り図
多摩川は非常口の上
方を流れる。点線はリ
ニア予定ルート。





右は河川敷脇の道路で、手
すりに流れてきた枯草が。
左の点線まで水が来てい
た。堤防下1.5mまで。





右は等々力市民ミュージ
アの休館のお知らせ。
左は流れてきた草や倒れて
いる立木だらけの状態。

